

下仁田ネギの一生を追った受賞作の説明をする群馬さん(右) (8月24日、前橋市で)



葉画家・群馬さん 英の植物画展最高賞

葉画家・
群馬さん 下仁田ネギを実物大で描いた受賞作は、苗の仮植えから収穫、種取りといった作業を追い、葉にできた斑点や土粒まで克明に描いている。顔料を卵で練つた「テンペラ」という古典画法を用いた。

群馬さんは東京都立川市在住。美大生時代に新緑の葉だけを38年間描いてきた。「一枚一枚の葉が光り輝く存在」と、虫食いの穴や病気による変色もありのまま描く作風が特徴だ。11年前からは野菜の絵にも取り組んでいた。

今回の作品に取りかかったのは2016年2月。伝統農法を守り続ける下仁田町馬山地区の農家に10か月間通つて農作業を体験し、

下仁田ネギ 一生を描く

植物の葉を写実的に描く葉画家・群馬直美さん(60)(高崎市出身)が手掛けた作品「下仁田ネギの一生」が、7月にロンドンで開かれた英国王立園芸協会主催の「ボタニカルアート&写真展」で植物画部門の最高賞に輝いた。農家に通つてネギが育つ過程を丹念に見つめ、3年以上かけて仕上げた6枚組みの力作だ。前橋市で開催中の個展で27日まで展示している。

下仁田ネギを実物大で描いた受賞作は、苗の仮植えから収穫、種取りといった作業を追い、葉にできた斑点や土粒まで克明に描いている。顔料を卵で練つた「テンペラ」という古典画法を用いた。

満場一致で選んだ。

農家に通い 実物大で描写 前橋で個展

一本一本のネギと向き合つた。「表面に付いた土もネギの命を支えていると思うと、全てのことに対する意味と価値を感じ、何一つ省いて描くことはできなかった」と振り返る。作品が完成したのは今年5月だった。

同展は世界で最も権威のあるボタニカルアート(植物画)展の一つ。絵画部門には書類審査を経た30人が出品し、群馬さんは最優秀賞を受賞した。作風や着眼点が「画期的」と審査員が評価された。うち1回の個展が初めて。うち1点は同協会が購入を希望しており、まとめて鑑賞できるのは最後の可能性もある。群馬さんは「一本一本のネギに宿る命の輝きを見たい」と話している。

会場は、前橋市古市町のヤマト本社1階ギャラリーホール。同社のビオトープ園の植物を描いた作品を含めて約40点を展示している。入場無料。群馬さんが来場する21、22日を除く土日祝日は休館。問い合わせはヤマト(027・290

・1800)へ。